

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04142

研究課題名(和文) Effects of Personality Traits and Self-Construals on Life Orientations

研究課題名(英文) Effects of Personality Traits and Self-Construals on Life Orientations

研究代表者

山口 綾乃 (YAMAGUCHI, Ayano)

立教大学・コミュニティ福祉学部・助教

研究者番号：40592548

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究(1)では、怒りの感情規制が健康レベル(心理的、肉体的)に影響を与えているかどうかについて検証した。結果として、怒りの感情規制が健康レベルに影響を与えており、日米の違いがあると明らかにした。研究(2)では、生きがいや健康レベルを検証する際に多文化主義(多文化多様性)の役割について検証した。生きがいや健康レベルを検証する際に多文化主義の役割を見出し、日米の違いがあると示唆した。研究(3)では、東日本大震災における東北地域において、多様性のある社会関係資本と人生の満足度、あるいは幸福感、健康レベルについても検証した。結果として、社会関係資本の役割を見出した。

研究成果の概要(英文)：First, my research explored the role of anger regulation as well as psychological and physical factors in physical health. The results revealed they all played meaningful parts in contributing to physical health. Cross-cultural differences between the US and Japan were also discovered. Second, I examined the impact of multicultural identity on health and well-being. The findings showed the effects of multicultural identity on health and well-being to be positive. In addition, I clarified the cross-cultural differences between the US and Japan. Finally, my study identified the influence of social capital on health and well-being after the Great East Japan Earthquake. The results revealed that social capital played a significant role in health and well-being.

研究分野：臨床心理学

キーワード：ウェルビーング 楽観性 悲観性 うつ傾向 幸福感 健康 社会関係資本 被災地域

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化社会という言葉が注目されている。人生をいかに生きていくのか?といった人々の幸福感について、様々な研究の取り組みがなされてきている。例えば、人々の幸福感のカギとなる要因の1つに社会的サポートや Quality of Life (QOL: 生活の質、生きがい) というものがあるとされている。また、これらの社会的サポートと QOL が人々の幸福感と健康レベルを高めるということが分かってきた。過去の研究(若手 B 2011~2013、2013~2015)を通して、健康、QOL、社会関係資本などに関して、11の項目を発見した。そして海外との比較研究の中で、健康、生きがい、社会関係資本における日米の違いは、社会環境や状況による違いに起因していることを発見した(Yamaguchi, 2010)。

本研究では「人生をいかに生きていくのか?」という課題において、幸福感と QOL の関係性と新しいコミュニティ政策にはどのような関係性があるのかを明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

近年、グローバル化に伴い人の幸福感や生きがいも多様化する時代となりつつある。本研究は、まず、日米の中高年齢層を調査の対象とした。その理由は、人生後期・晩年への展開期であり、日本において男性は自殺率が高く、女性では抑うつ傾向が強くなっており、幸福感と健康レベル、健康観において重要な年代であると考えているからである。また、世代間を超えた幸福感、健康レベル、健康観や生きがいを理解することが、疾病などを予防することにつながると考えたからである。具体的には、(1)人々の幸福や観や生きがい、健康レベルなどを質問紙調査のような量的研究とインタビュー法のような質的研究法という日米二つのデータベ

スを作成し若者を対象として上記の価値共創モデルを検証する(2)ミシガン大学、ウィスコンシン大学、スタンフォード大学が所有している MIDUS (Midlife in the United States) と MIDJA (Midlife in Japan) という日米二つのデータベースを積極的に活用し、中高年期を対象として生きがい、QOL、新しいコミュニティ政策モデルを作り上げ、今までの既成の枠組みにとらわれず、新しいアプローチで人々の幸福感や生きがい、健康レベル、Well-Being (ウェルビーイング)を調査することを目的とする。

上記の目的を達成するために、具体的に3つの事項を目標とする。

研究(1) 怒りの感情規制とうつ傾向などの心理的健康レベルと肉体的健康レベルに関する経緯と現状、問題の概要を紹介し、怒りの感情規制が健康レベル(心理的、肉体的)に影響を与えているかどうかについて検証することを目的とした。サンプルは、日米の中高年齢層を対象とした。

研究(2) グローバル化に伴った多文化多様性という概念の導入、多文化多様性と生きがい、健康レベルに関する経緯と現状、問題の概要を紹介し、生きがいや健康レベルを検証する際に多文化主義(多文化多様性)の役割について検証することを目的とした。

研究(3) 東日本大震災における東北地域において、多文化視点から見た社会関係資本と幸福感に関する経緯と現状、問題の概要を紹介し、多様性のある社会関係資本と人生の満足度、あるいは幸福感、健康レベルについても検証することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究を遂行するために、量的研究と質的研究調査法を用いた。最初に量的研究である統計分析を行った。統計分析では、記述統計、多母集団からなる共分散構造分析、階層的重回帰分析などの複数の統計解析手法を用いた。量的研究から得られた知見をサポートするために、質的調査を行った。今回は、インタビューデータを2次的データとして使用する機会を得た。

4. 研究成果

研究(1)に関して、2次的データであるMIDUS and MIDJA(日米における2次的データ)の解析を行った結果、次のような結果が得られた。米国人と日本人の中高齢層のデータから、米国人は怒りを我慢せず外に出し、結果としてストレスをためないので、健康レベルが高いという結果が示された。しかしながら、日本人は、怒りをためて我慢してしまうことで、結果としてストレスをためてしまい、健康レベルが低いことが示された。こういった怒りの感情規制と幸福感、健康観、健康レベルに関して日米の違いがあるということを確認することは、世代間を超えた幸福感、健康レベル、健康観や生きがいを理解し、疾病などを予防することに展開させていけたら幸いである。

研究(2)に関して、2次的データであるMIDUS and MIDJA(日米における2次的データ)の解析を行った結果、次のような結果が得られた。グローバル化が進むことにより、人々が世界に頻繁に往来する機会が進んでいることで、日米の中高齢層の人たちのなかで、多文化主義のレベル(多文化多様性)が高い人達(独立的な傾向もあり、他者協調的な傾向もある人達)が人生に対する満足レベルや前向きな姿勢、幸福レベルなどが高い

ことが明らかになった。多文化主義が進むことにより、ある与えられたコンテキスト(状況)内で、的確に自分自身を対応させる柔軟性が高まり、バランスのとれた行動をとる傾向があるということが明らかになった。

今回のこの研究結果については、今後のグローバル化が進むことにより、グローバル化英語コミュニケーション教育などへの教育貢献に一助となれば幸いである。

研究(3)に関して、2次的データであるインタビューデータの解析を行った結果、東日本大震災で被災し、仮設住宅などで暮らしている住民に対して社会関係資本(人とのつながり)と人生の質(QOL)、生きがい、幸福感、健康観に関する重要な項目をインタビューデータから抽出することができた。震災後、日常において社会的つながりを意識的に再認識し、社会的つながりが必要かつ大事なものであることが実感され、かつ自分の所属するコミュニティへの帰属意識が高くなったという結果を得ることができた。また、自分の地域に対しての帰属意識は高まったが、自治体に対する信頼感、信頼関係のレベルが減少していることが明らかになった。震災後、人とのつながりや生きていく意味、人生の生きがいや幸福感、さらに健康レベルなどについて見直す機会となったことで、新たに自分のコミュニティへの帰属意識が高くなったという結果が出た。今までの既存の枠組みにとらわれるのではなく、新しいコミュニティの在り方を模索する機会となれば一助である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

1. Yamaguchi, A., Akutsu, S., Oshio, A., & Kim, M. (2017). Effects of Cultural

- Orientation, Self-Esteem, and Collective Self-Esteem on Well-Being, *Psychological Studies*, 30 August, 1-9. (査読有)
2. Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S. (2017). Influences of Social Capital on Natural Disaster Research in Japan, *Journal of Sustainable Development*, 10 (3), May 46-54. (査読有)
 3. Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S. (2017). The role of anger regulation on perceived stress status and physical health. *Personality and Individual Difference*, 116, 240-245. (査読有)
 4. Yamaguchi, A., Kim, M.S., & Akutsu, S. (2016). The Effects of Self-Construals and Interactive Constraints on Consumer Complaint Behaviors Across Cultures. *Psychological Studies*, October, 1-12. (査読有)
 5. Akutsu, S., Yamaguchi, A., Kim, M.S., & Oshio, A. (2016). Self-Construals, Anger Regulation, and Life Satisfaction in the United States and Japan. *Front. Psychol.* 7:768, 31 May, 1-12. (査読有)
 6. Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S. (2016). Relationship between Bicultural Identity and Psychological Well-Being among American and Japanese Older Adults. *Health Psychology Open*, 3(1), January-June, 1-12. (査読有)
 7. Yamaguchi, A. (2015). Influences of quality of life on health and well-being from qualitative approach. *Social Indicators Research*, 123(1), August, 77-102. (査読有)
 8. Yamaguchi, A., Kim, M.S., Akutsu, S., & Oshio, A. (2015). Effects of anger regulation and social anxiety on perceived stress. *Health Psychology Open*, 2(2), July-December, 1-9. (査読有)
 9. Yamaguchi, A., & Kim, M.S. (2015). Effects of self-construal and its relationship with subjective well-being across cultures. *Journal of Health Psychology*, 20 (1), January, 13-26. (査読有)
 10. Kim, E. J., Yamaguchi, A., Kim, M. S., & Miyahara, A. (2015). Effects of Taking Conflict Personally on Conflict Management Styles across Cultures. *Personality and Individual Differences*, January, 72, 143-149. (査読有)
- [学会発表] (計 4 件)
1. Yamaguchi, A., Kim, M.S., & Akutsu, S. (2017). Influences of Gratitude on Health Status in the United States and Japan, International Communication Association in San Diego, CA, Health Communication Division. (査読有)
 2. Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S. (2016). The Role of Anger Regulation on Perceived Stress Status and Chronic Conditions in Japan and the U.S. National Communication Association in Philadelphia, PA, Japan-US Communication Association. (査読有)
 3. Kim, M.S., Yamaguchi, A., Oshio, A., & Akutsu, S. (2016). Relationship Between Bicultural Identity and Psychological Well-Being Among Japanese and American Older Adults. National Communication

Association in Philadelphia, PA, Japan–US
Communication Association. (査読有)

4. Yamaguchi, A., Kim, M.S., Akutsu, S., &
Oshio, A. (2015). Effects of cultural
orientations, self-esteem, collective
self-esteem on well-being among college
students in the mainland U.S., Hawaii, and
Japan. National Communication Association
in Las Vegas, NV, Japan–US
Communication Association. (査読有)

[その他]

ホームページ等：特になし

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

山口 綾乃 (YAMAGUCHI, Ayano)
立教大学・コミュニティ福祉学部・助教
研究者番号：40592548

(2) 研究分担者

阿久津 聡 (AKUTSU, Satoshi)
一橋大学・大学院国際企業戦略研究科・教授
研究者番号：90313436

小塩 真司 (OSHIO, Atsushi)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：60343654

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

キム ミンスン(KIM, Min-Sun)
米国ハワイ大学・大学院コミュニコロジー研
究科・教授

ナンシー ルイス (LEWIS, Nancy D)
米国イーストウエストセンター (米国 東西
センター) リサーチ・プログラム・教授